

知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）開館の経緯と文化協会について

知立市文化会館は、2000年7月に開館しました。会館建設にあたり、準備の段階からそもそも新施設が必要なのかという議論から始まり、設計段階では利用者目線でのきめ細かい提言を重ねてきた。開館後は市民によるサポート体制を充実させ、一般公募での「パティオ池鯉鮒」のネーミング、市民参加型の様々な事業を展開するなど、建設から運営まですべてにおいて深く市民が関わって進められており、以前問題視されていた箱もの行政から大きく脱却しているということが、この会館の最大の特徴だと言える。知立市文化協会も文化活動の拠点とするべく、役員・会員一丸となって建設要望からアンケート実施、会館の仕様提言、運営方法等に至るまで深く関わってきた。以下、地域の文化活動の場が小中学校体育館等から中央公民館に移ってからの経緯は下記の通りである。

1978年4月に知立市中央公民館の開館により、地元文化団体の活動が飛躍的に活発化するに伴い下記のような条件を備える施設の必要性が高まってきた。

- ・舞台芸術の創造ができる舞台機構を備え、鑑賞・発表とともに会議・練習場所も兼ね備えていること
- ・総客席数が300を超える大規模な催事の鑑賞（有料含む）・発表ができること
（著名人公演が可能な大ホール、市民が容易に活動できる小ホールを併設）
- ・地元伝統芸能である山車文楽からくりの発展・継承の拠点となりえること

1980年頃より、新しい文化施設建設に対する要望が高まり、他市会館の事前調査が関係者で実施され建設準備が開始された。以後は、次のような段階を経て検討・建設・運営が図られた。

- ・1988年（昭和63年）市役所内部において「市民ホール等調査専門部会」設置。
- ・1994年（平成6年）有識者らを中心とした委員による「市民ホール建設検討委員会」設置。
- ・1994年6月まちづくりシンポジウムにて、地元文化団体よりアンケート結果の報告と基本的なスタンスとして「練習から発表まで可能な総合施設」・「文化の香りのするにぎわいの広場」となる空間を生み出す場であることを提言。

- ・1992年（平成4年） 議会特別委員会設置
- ・1993年（平成5年） 建設研究委員会設置
- ・1995年（平成7年） 「市民ホール建設検討委員会」により建設基本構想策定
- ・1996年（平成8年） 市民ホール施設設計・運営計画委員会」設置

※「市民ホール活用協議会」設置。

公募による市民の委員を中心に審議を重ね、基本構想に施設利用者からの意見（大小ホール席数、防音練習室仕様、フレキシブルな会議室仕様、文化団体交流室、壁面展示スペースの設置、大勢の地元出演者催事対応の廊下を活用した楽屋の必要性等々約250項目）を付与

※プロポーザル方式により設計業者確定（応募は33社）

※基本設計委拓（日本設計）

- ・1997年（平成9年） 広く市民の意見を求めるため、パネルディスカッションを開催。
- ・1998年（平成10年） 市民ホール愛称募集・決定
- ・1999年（平成11年） 会館のサポーターとしてホールボランティアを公募し研修会開催。
- ・2000年7月開館 以後毎年、公的補助金を積極的に申請・確保することにより、幅広い芸術分野と年齢層を対象とした市民参加型事業を展開。

・2004年（平成16年） 指定管理者制度により「ちりゅう芸術創造協会」（現一般財団法人）が管理運営を実施。民間経営による新たな発想で貸館の利便性と幅広い事業を柔軟に展開。開館後は舞台芸術創造の専門家により、「顔なじみの文化」をスローガンとする市民参加型の音楽・演劇・舞踊・伝統芸能分野の舞台創造、実践芸術講座（シアターカレッジ）が実施され、ホールボランティアとの連携が実践された。

2006年からは市直営から指定管理者の管理運営となり、「地域にねざす したしみとにぎわいの会館」をキーワードに、多様な芸術分野、幅広い年齢層を対象として子育て支援や幼児から高校生までを対象とした事業を展開している。

これまで多くの方々が熱い思いで文化会館に関わってこられ、現在は毎年延べ20万人の方が利用されており、文化芸術活動の発信拠点として、文化の香りのするにぎわいの空間として、また遊びと憩いを生み出す場として地域の文化力の活性化が図られ、当初の狙いを達成し得ているとともに、一定の経済効果の役割をも果たしている。

文化協会も、「しみん芸術祭」として、毎年6月から翌年3月まで、各芸術分野が連携して自主活動を推進し、地域の文化活動の一翼を担っている。

今後とも、知立市の文化芸術活動は、知立市文化協会・パティオ池鯉鮒が両輪となって率先躬行し、リリオ・コンサートホールとも連携をとって活性化を図っていくことが期待される。

備考）文化会館建設にかかわった方々を記録として下記に掲載（敬称略、順不同）

◆市民ホール施設設計・運営計画委員会（平成9年8月）

<専門委員>

内山千吉（舞台芸術・演出家）、清水裕之（名大教授）、渡邊昭彦（豊技科大教授）、佐藤壽晃（舞台照明）、高木俊行（名大学院生）、塚本巖（舞台音響）、後藤静夫（国立文楽劇場）

<委員>

野村尚次（文化協会：委員長）、加藤敏三（商工会）、松原多七（県西三河事務所）、
薫田八郎（文化協会）浅井克彦（文楽関係者）、千田靖子（からくり研究家）

<オブザーバー>

雨宮正弥（日本設計）

◆市民ホール運営計画委員会(平成10年7月)

<専門委員>

内山千吉（舞台芸術・演出家）、清水裕之（名大教授）、渡邊昭彦（豊技科大教授）、佐藤壽晃（舞台照明）、塚本巖（舞台音響）、後藤静夫（国立文楽劇場）、山田信芳（音楽監督）

<委員>

水谷喜八郎（文化協会：委員長）、薫田八郎（文化協会、演劇関係者）、浅井克彦（文楽関係者）
千田靖子（からくり研究家）、近藤富士雄（音楽関係者）

<オブザーバー>

雨宮正弥（日本設計）

◆市民ホール活用協議会（年度により委員は変動、文化協会委員が多数参加）

<音楽関係>近藤富士雄、加藤育雄、定行和子、伊勢淳、内菌亜矢子、鈴木尚哉、河上由加里

<演劇関係>薫田八郎（委員長）、永谷通枝、浅井田鶴子、 <美術関係>倉重栞石

<ステージ運営関係>近藤昭彦、二宮智子、大矢永子、末益泰輔

<舞台音響照明装置取扱関係>岩間陽子、福元敏昭、高木芳巳

<山車文楽>本多純一 <山車からくり>杉浦五一 <義太夫>板倉ミチ

<福祉関係>加藤美津子 <高齢者>岡田重雄 <女性関係>鈴木恭子